

『大きな恵み・大きな恐れ』（使徒の働き 4章32節-5章11節）2023.7.16.
<はじめに> イエスの復活を力強く証しする使徒たちによって、イエスを信じる人たちが次々起こされて、教会は数的にも質的にも充実してきました。しかし、その最中に厳粛な出来事が起こります。神は愛の神なのに、こんなことが起こるのはなぜでしょうか。

I 初代教会の様子(4:32-37)

①共有と分与(4:32-35)

持ち物・財産を教会に差し出す人もあれば、必要や乏しさを素直に明かす人もいました。自発的な心と意思を一つにして、共有していた(32)からで、その結果、お互いが満たされていきました(34)。その人たちの心と意思を具体的に言い表すと、どんなものでしょうか。

②大きな力(4:33)

使徒たちは、民の指導者たちからイエスの名によって教え語ることを禁じられていましたが(18)、むしろ大胆に語らせてくださいと祈りました(29)。33節でその祈りが答えられたのです。使徒たちは、恐れ・不安を大胆に乗り越えて、イエスの復活を明確に証しました。

③大きな恵み(4:33)

彼らはよみがえられたイエスを身近に感じて、日々生活していました。罪を悔い改めて新しく生まれ変わり、キリストに従い価値観と生き方が大きく変わっていきます。神の不思議な御業を体験し、喜びと感謝が心に湧き、それが具体的な共有となって表されました。

II 献げる二者(4:36-5:11)

①バルナバ(4:36-37)

バルナバが、所有の土地を売り、その代金を差し出しました。この行動は彼が最初ではなかったようです。慰め(励まし)の子と呼ばれる彼らしいエピソードです。やがて彼は教会内で一目置かれる存在となり、使徒パウロの登用にも関わります(11:25-26)。

②アナニアとサツピラ(5:1-11)

アナニア・サツピラ夫妻も、所有の土地を売り、その代金を差し出しました。その動機は何でしょう。二人が代金の一部を自分のもに残したのはどうしてでしょうか。妻は何のために3時間後に現れたのでしょうか。二人どう言っていたら、死なずに済んだでしょうか。

③大きな誤解

神は献げ物を強制されていません。自分のために手元に一部を残すことも問題ありません。むしろ問題は、二人が心を合わせて偽ったこと、正直に真実を述べる機会を逸したことです。偽りを言っても、神には分からないと思っていたのではないのでしょうか。

III 大きな恐れ(5:11)

①神を侮ってはいけない

嘘は人は騙せても神を欺くことはできません。この方はすべてをご存じだからです。なのに、偽って騙せると思い込むことは高慢で、神はこれに厳しく向き合われます。アダムとエバ(創世記2:17,3:11)、アカン(ヨシュア7:1)に及んだ厳粛な結果と同じです。

②安全地帯にはいない

彼らもイエスを信じた者でした。その彼らの心を奪い、偽らせたのはサタンだ、とペテロは指摘します。サタンは今も信仰者の足元をすくおうと付け狙っています。聖霊に満たされていても、サタンの誘惑・攻撃や人間的な欲望から解放されたものではありません。

③聖霊は教えてくださる

クリスチャンらしさ、聖さを装おうと、無理をしてはいないでしょうか。誰かの真似をしていても、神はその心・動機まですべてご存じです。私たちは神と心と意思を一つにするために、聖霊が与えられ、この方に聞き従うようにと招かれています。

<おわりに> 教会と信仰者は、外からの攻撃だけでなく、一人ひとりの心に仕掛けて来る試みる者とのせめぎ合いの中に生きています。しかし、主イエスはサタンのわざを壊し、その策略から私たちを守ろうと聖霊を与えられました。この御方を軽んじてはなりません。(H. M.)